

夏季大規模災害時の熱中症対策



災害時、水や電気などの供給が制限されるような状況では、気温・湿度のコントロールやこまめな水分補給が難しくなるだけでなく、慣れない環境でストレスにより体調が変化する、睡眠不足や生活リズムが乱れやすくなるなど、熱中症を引き起こす要因となる「環境・からだ・行動の全ての面で熱中症の危険性が高くなります。

また、そのような状況下で企業が災害時に避難所を運営したり、従業員を一時的に受け入れたりする場合、熱中症対策は安全配慮義務や事業継続(BCP)の観点からも重要となります。

電源確保のススメ

ハイブリッド蓄電システム 自動充電

発電 充電

急速充電 約60分

充電回数 ※2 約3.5回

付属の拡張接続ケーブルで接続

Action.1 ポータブル電源の電池残量が29%以下になると発電機が自動で始動

Action.2 ポータブル電源を約60分※1で急速フル充電

Action.3 ポータブル電源にフル充電後発電機のエンジンが自動停止

※1 発電機にポータブル電源が他に出力していない場合、電池残量0%からのフル充電は約60分です。 ※2 発電機が満燃料でポータブル電源の電池残量29%→100%の場合

熱中症対策として、会社のオフィスや避難所などの広い空間用の「冷却機器」やそれらを稼働させる電源の確保として、「蓄電池・ポータブル電源」を導入しておくことが勧められています。

特に大阪など都市部のオフィスでは、夏季の大規模停電時に「空調停止+帰宅困難者滞在」が重なることがあるため、最低でも72時間程度を想定した熱中症対策をBCPに組み込む企業が増えています。

専門家に聞く

災害対応にあたる職員や関係者は、使命感から無理をしがちです。サッカーW杯でも、選手に「大丈夫か」と聞けば「大丈夫」と答えるため、近年はスマートリングのようなウェアラブル端末で睡眠や心拍などを把握し、無理をさせない管理が進んでいると報じられています。災害時も同じです。大切なのは、本人の頑張りに任せきらないことです。休憩、交代、水分補給、暑熱環境を組織的に管理することが、職員の命と健康を守り、災害対応を安全に継続する力になります。(関西大学社会安全学部 教授 奥村与志弘)



「総合防災・減災企業」として命をつなぐサービスを増進する



日本BCP株式会社

【東京本社】〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 48 番地 ism 神田 2 階
TEL:03-5289-0223/FAX:03-5289-0235
【大阪本部】〒599-8235 大阪府堺市中区深井東町 3099 番地
TEL:072-230-5888/FAX:072-230-5887

当通信の文章・画像・図表等の無断転載・複製を禁止します

お問合せはこちら

